大谷石研究会の活動報告

真壁町探索

小西敏正
NPO法人 大谷石研究会　顧問
宇都宮大学教授

去る6月の日曜日、登録文化財が多く残る茨城県桜川市真壁町の視察をしました。栃木県建設産業会館駐車場に朝集合。小野口理事長夫妻、今回の企画者の塩田企画・渉外委員長（副理事長）を含め十数名が乗った貸し切りバスで出発。真壁町で柴崎さん、小瀧さん、日本建築仕上学会の杉本さん夫妻、奥山さんが参加し20人近くなる。

桜川市文化財ボランティアの方の心のこもった案内で、真壁の登録文化財の建物を中心に真壁町を見学する。真壁町は筑波山に近く、1172年に真壁長幹によって真壁城が築かれ発展したが、1622年廃城になって今は国指定史跡の城址だけが残っている。しかしこの後、真壁は城下町から商業の町に見事に変身する。城のあった山側から西に向かって走る「上宿通り」、「下宿通り」と、これと直交した「見芽通り」、「御陣屋通り」が街並を構成する。真壁には実に100を超える登録文化財の建物がある。半日でその全てを見るわけにはいかないので、街のハイライトを見て廻ることになった。

■村井醸造・・・17世紀の後半にこの地で酒造りを始め、今も現役の村井家には、明治期の店舗、脇蔵、大正期の石蔵、昭和初期の煙突がある。

■猪瀬家の薬医門・・・江戸末期から明治初期に建てられたもので精巧な彫刻が彫られ、真壁に多数ある薬医門の中でも古く立派である。

■市塚家長屋門・・・桁行9間、梁間2間半で桟瓦葺きの寄せ棟屋根である。代々農家を営み米検査所でもあっただけあり見事である。

■旧真壁郵便局・・・町の中心部にあり、真壁では数少ない洋風近代建築の登録文化財の一つである。1927年に国立大五十銀行（現在の常陽銀行）真壁支店として建てられ、1956年に郵便局に、さらに1986年から真壁町の案内所になっている。街の北側にも谷口家、大森家などの民家が残り街並みがよく保存されている。

■谷口家・・・真壁でも指折りの旧家といわれ、店舗、主屋、門、5棟の蔵が登録文化財になっている。

この真壁の街が整いだしたのは5年前の「ディスカバー真壁」という街おこし運動からである。はじめは「人に家のことをとやかく言われるのはいやだ」という人が多かったが、次第に住民の意識が変わり街を愛するようになってきた。黒く塗った板塀、電信柱に一輪挿しと自分達でできることを地道にやってきた成果だという。文化庁の考えも、個から環境を含めてと変わってきた。真壁に追い風が吹いているようだ。大谷も学ぶべき処が多くありそうである。

昼食は、これも登録文化財になっている伊勢屋旅館でとりながら各参加者が自己紹介をした。

昼食後、バスに乗り込み、筑西市の中村美術サロンを見学する。詳しくは「大谷石百選」の48頁を参照頂きたいが、大谷石の蔵と美術館に改装された店蔵が街並みを形成し活用されている。最後に結城市のつむぎの館（奥順株式会社）を見学して帰途につく。

大切にしますパートナーシップ
印刷技術がいかに進歩しようとも
技術表現の根幹は「心」であると考えます
印刷のご用命は
株式会社 新光社印刷
〒321-0811　宇都宮市大通り2-4-1番地
TEL 028-633-4718（代）FAX 028-637-3981

天然大谷石の美しさを活かしながら
誰にでも簡単に施工できる石壁材
「カネホン」
さらに火にも強く、施工が簡単な
大谷石サイディング
「カネホンS」誕生。
有限会社 KANEHON
〒321-0345 宇都宮市大谷町350番地
TEL 028-652-0172 FAX 028-652-0192

「ライトの有機的建築を通して観る大谷石」

私は、今年東海大学の建築デザイン学科を卒業しました海老原淳と申します。現在は、宇都宮市内のハウスメーカーに就職し、忙しい日々を送っております。

私は、「F・L・ライトと遠藤新における有機的建築と大谷石の関係」という卒業論文に取り組んできましたが、研究の中で「ライトが大谷石で帝国ホテルを飾った故に、ホテルは名建築になり得たのであったが、必ずしも適切でない大谷石の建築材料としての欠陥の故に、ホテルの寿命を縮めてしまった事も事実である。」という、ライト研究の第一人者、谷川正己氏の言葉に大変興味を持ちました。

ご存知の通りフランク・ロイド・ライトは、日本でも数多くの作品を残してきましたが、建築材料としては必ずしも適材とは言えない大谷石を多用しています。しかしそこには、大谷石でしか表現できないライトの建築があるのではないのかと思いました。

「ライトの有機的表現の一例（旧帝国ホテル正面の大谷石による装飾）」

ライトは一貫して「有機的建築」の理想を追求し続けました。当時の機能主義者たちが、極力排除しようと心掛けた装飾の類いや周囲の自然環境までもが、建築の質の向上にとってきわめて重要な要素であると考えたのがライトの「有機的建築」です。

研究を進めていく中で、ライトにとって大谷石は、〈人間性をより豊かにする建築空間〉を装飾する材料として最適な材料であったことがわかりました。近年の無機質なコンクリートだらけの建築の中ではなおさら、ライトの時間と共に風化する大谷石による作品は、「有機的建築」を実現した優れた建築であるように思います。

また、大谷石の魅力を肌で感じる事ができたこともこの研究での大きな収穫でした。街ではうまく活用できていない大谷石建築を数多く見かけます。そのような大谷石建築をどのように活用し利用していくかで、これからの大谷石建築の価値や栃木県に対する価値も変わっていくと思います。栃木が世界に誇る建築作品や建築資材として、今後も大谷石の価値が少しでも上がるよう私自身これからも協力していきたいと考えています。

会員紹介

NPO法人大谷石研究会　顧問
麻生　秀穂
東京芸術大学名誉教授
沼津市庄司美術館館長

関が原にて

錦繍の山懐に重り会って美しく虹が架りました。こちらは今紅葉真盛りです。生来の漂泊癖はいまだに治まらず又往生際も悪いことに終の棲処を尋ねて娑婆を徘徊致して居ります。この度は人生双六振り出しに戻るとでももうしますか、学生時代から縁の深かった関が原の地にわらじを脱ぐことになりました。もう一生分の材料が此処に眠っていることに気付いたのです。使い切るには相当のエネルギーを要する筈ですので志を新たに三昧に暮らすことが出来得ればと願っております。

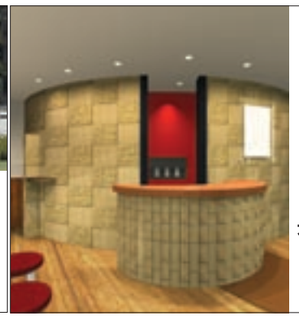
採掘跡の地の地下大空間に魅せられて滞在を重ねた大谷町での八年間、石遊亭の住人となったその日にお会いした高橋啓子さんに先づ連れて行っていただいた処が小野口順久氏のお宅でした。当主の風貌立派な長屋門と石塀に囲まれた広大な屋敷の佇まいにこの町の歴史的奥行を感慨深く印象づけられた一日でした。爾来大谷石研究会発足迄の紆余曲折、高橋啓子さんの八面六臂のご活躍を唯々傍観するばかりでしたが、みるみるうちに広がって行った輪の中でめぐり会った多士済々、心のうちに星座を見るような思いにかられます。四季折々デジカメを片手にさまよい歩いた日々、世界遺産となるべき大谷の地で贅沢な時を満喫出来ましたことは奇跡的なこととして今は感謝するのみです。距離的に少し遠くに身を置くことになりましたが大谷町とNPO法人大谷石研究会の益々の発展を心より祈念致してお

大谷の民話・史跡あれこれ

「正月餅をつかない里」

荒針の坂本地区では、正月餅をつかずに赤飯を蒸かす習わしがあった。その昔、正月を翌日に控えた大晦日弘法大師が、大谷にやってきて一晩のうちに戸室山の麓に百体の仏様を彫ることを決心した。一心不乱にノミを振るい仏様を彫っていたが、百体目を掘ろうとした時のこと、餅をつく音が聞こえてきた。若者夫婦が、空が白みはじめたからもういいだろうと正月の餅をつき始めたのである。昔は、正月餅は正月になってからついたものだという。餅をつく音を聞いた弘法大師は、決心が叶わなかったことを悔やみ、仏様を彫るのを止め、むら人に決心が餅をつく音のために果たせなかったと告げた。むら人たちは、その僧が弘法大師と知ると、大師の願いを破ってしまったことを申し訳なく思い、それ以来正月元日に餅をつくことをやめ、かわりに赤飯を蒸かすようになったというのである。

国登録有形文化財　小野口家住宅
画廊と庭園
東榮堂
〒321−0344宇都宮市田野町885
TEL 028-652-0407　FAX 028-652-6360



大谷石と共に150年
採掘販売事業部・石材加工事業部・砕石加工事業部
設計・施工
有限会社 高橋佑知商店
本社　宇都宮市大谷町３５０番地
TEL 028(652)0005(代表)
FAX 028(652)0192